

## 平成30年度課題別人権教育研修講座C

人権教育推進上の様々な課題について、その解決の方策を検討することを通じて、人権教育推進のための資質向上を図ることを目的として、実施しました。

- 1 日時及び会場 平成30年8月2日(木) 13:00~16:00 奈良県文化会館
- 2 参加者 県内小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校等の人権教育推進担当教員等 <<158名>>
- 3 日程及び内容 13:00 開会行事  
13:10 説明「人権教育の推進について」  
14:10 講演「自尊感情・自己肯定感を高めるために」

### <内容(概要)>

#### (1) 説明「人権教育の推進について」 奈良県教育委員会事務局 人権・地域教育課 指導主事

人権教育を推進する上で、「基盤となる人権意識の確立」と「様々な人権侵害、差別問題の克服」といった課題に対して、「普遍的な視点からのアプローチ」と「個別的な視点からのアプローチ」との相まった取組が求められる。このような取組を通じて目指していることは、「人権が尊重されている社会を築こうとする人間の育成」であり、そのためには教育の場においてすべての関係者の人権が尊重されていることが重要である。「自己実現の視点」「共生の視点」「人間関係づくりの視点」という3つの視点に照らし、教育活動全体を通じて「教育を受ける権利の保障を通して」「人権についての理解を深める教育として」「人権を尊重する主体を育てる教育として」「人権が尊重される教育として」という4つの側面から取組を進めていただきたい。学校教育における人権教育推進上の今日的課題に対しては、「人権教育の基盤となる自尊感情の醸成と集団づくり」「教職員の人権に関する知的理解の深化と人権感覚の醸成」「各教科等における人権教育の取組の充実」といった取組を進めていただきたい。

#### (2) 講演「自尊感情・自己肯定感を高めるために」 奈良女子大学 生活環境学部 教授 伊藤美奈子

自尊感情・自己肯定感とは「自分のできることできないことなどすべての要素を包括した意味での“自分”を他者とのかかわり合いを通して、かけがえのない存在、価値ある存在としてとらえる気持ち」のことである。

自己肯定感の高さは、まわりの人との人間関係、学業、行事、進路などの学校適応や、親子関係・親子交流などの家庭環境、そして情緒要因等と関連している。例えば、いじめや虐待をうけている児童生徒の自己肯定感は低い。いじめをしている児童生徒の自己肯定感も低い。自己肯定感は生来的なものではなく、学校教育・家庭教育・社会経験などの状況により変化する。つまり自己肯定感は、人とのかかわりを通して育まれる。

自己肯定感の高さも大切であるが、「自己評価・受容」「関係の中での自己」「自己主張・決定」の面におけるバランスも大切である。思春期には、自分と向き合ったり、人のことを想像するといった自己意識と他者意識の高まりや、夢や理想と現実とのギャップから、自己否定や自己嫌悪に陥りやすい。これは、成長の証とも考えられるので、自己評価が下がることが一概に悪いわけではないが、より高めていくことは大切である。

自己肯定感とは、「人間関係」の中で、「愛される経験」「ほめられる経験」「認められる経験」「感謝される経験」をすることにより育ち、高められる。子どもたちの自己肯定感を育てるためには、周囲の大人の自己肯定感も大切である。



### <参加者の感想から>

- ・子どもたち一人一人の心の状態や自尊感情の見立てを、教師の主観だけでなく客観的にとらえられるアセスメント(自己評価)シートの有用性について知ることができた。
- ・自己肯定感がかかわり、声かけ、教育によって変わると聞いて安心したと同時に、自分の発する言葉に、より一層責任があることを感じた。
- ・いじめを防ぐ重要な方法として、自己肯定感を高めるように生徒と接することが大切だということに大いに同意した。
- ・子どもの自尊感情の育成には、同時に教職員や保護者の自尊感情が問われていると思う。